

有用海藻増養殖技術開発研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成 24 ~ 26 年度)

担当 : 水産技術研究所 深層水科 永倉靖大

【研究の背景とねらい】

1 サガラメの移植方法の開発

- ・ 榛南地域の沿岸には、かつて大規模なカジメとサガラメの藻場が存在していましたが、昭和 60 年頃から始まった磯焼け現象により消滅してしまいました。
- ・ サガラメは榛南地域特産の食用海藻であると同時に、藻場の減少に比例して海藻を餌にするアワビ等の漁獲量も激減したため、漁業者は藻場の復活を強く望んでいます。
- ・ 県では藻場の回復事業に取り組んでおり、カジメについては大規模工事による移植で一部の海域で群落を復活させることができました。しかし、サガラメは生息水深が浅いため大規模な土木工事による移植は適しません。そこで、サガラメが生息する浅い海域に対応でき、かつ漁業者にも実施可能な簡易な移植技術を開発します。

2 サガラメの養殖用優良系統の作出

- ・ サガラメは食用に供されることから養殖対象種として有望です。そこで、水産技術研究所が確立したサガラメを陸上水槽で養殖する技術を用いて、生産性を向上する生長優良系統、及び夏季の高水温期にも枯死しない高水温耐性系統を、選抜育種により作出します。

【研究成果】

1 サガラメの移植方法の開発

- ・ これまでに開発した塩化ビニル製キャップ移植基により、移植したサガラメの生長は確認できましたが、接着剤を用いた種苗の固定作業に多くの時間を要しました。
- ・ そこで、接着剤を用いないトリカルネット移植基を開発し(図 1)、実用規模で榛南地域沿岸に移植しました。
- ・ さらなる効率化を目指し、種苗の固定作業そのものを必要としない自力付着移植基も開発し(図 2)、試験的に榛南地域沿岸へ移植しました。



図 1 トリカルネット移植基



図 2 自力付着移植基

2 サガラメの養殖用優良系統の作出

- ・ 生長優良及び高水温耐性個体を選抜し、それらを親として F1 を作出したところ、親の優良形質が F1 にも見られることを確認しました。

【研究成果の普及方法】

- ・ トリカルネット移植基はすでに、漁業者が組織する榛南地域磯焼け対策推進協議会へ技術移転し、実際に磯焼け海域への移植に用いられ効果を上げています。
- ・ 自力付着移植基は短時間で多数の種苗の移植が可能であり、藻場の形成に有効と考えられるので、効果が検証できた段階で実用規模の移植に用います。
- ・ 生長優良系統と高水温耐性系統の選抜育種を継続して品種として固定し、養殖用種苗として県内漁業者へ普及を図ります。

(作成 平成 27 年 4 月)